

[野菜部門]

6. 促成栽培ナスのミナミキイロアザミウマに対する効果的な薬剤防除体系

[要約]

現地促成栽培ナスにおいて、ミナミキイロアザミウマの発生のピークである9月下旬から10月上旬に、効果の高い薬剤を重点散布することで栽培期間を通じて低密度に管理でき、被害果を抑制できる。

[担当] 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 技術

[背景・ねらい]

県南部の促成栽培ナス産地では近年、ミナミキイロアザミウマの被害が拡大しており、薬剤感受性の低下が懸念されている。そこで、現地における発生生態と防除対策技術を明らかにし、効果的な薬剤防除体系を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. ミナミキイロアザミウマ現地個体群は薬剤感受性が低下しているものの、比較的效果の高い薬剤は、アフーム乳剤とプレオフロアブルである（データ省略）。
2. 県南部の現地促成栽培ナスにおけるミナミキイロアザミウマの発生のピークは、定植後の10月と栽培終期の6月であり、発生量の異なる圃場の比較から、10月の発生のピークの抑制が重要である（図1）。
3. ミナミキイロアザミウマ多発生圃場において、9月下旬から10月上旬にアフーム乳剤とプレオフロアブルを重点散布する薬剤防除体系に改善すると、改善前に比べて10月頃の発生ピークが抑制され、栽培期間を通じてミナミキイロアザミウマの発生量が減少し（図2）、被害果割合が低下し、被害程度も軽くなる（図3）。

[成果の活用面・留意点]

1. ナス全体に薬剤が付着するように丁寧に散布する。
2. 本防除体系においても12月までの防除圧が低いと、その後の防除効果が劣ることがある。
3. 同じ薬剤を連続使用するとミナミキイロアザミウマの薬剤感受性の低下が懸念され、効果が低下するため、連用は避ける。

[具体的データ]

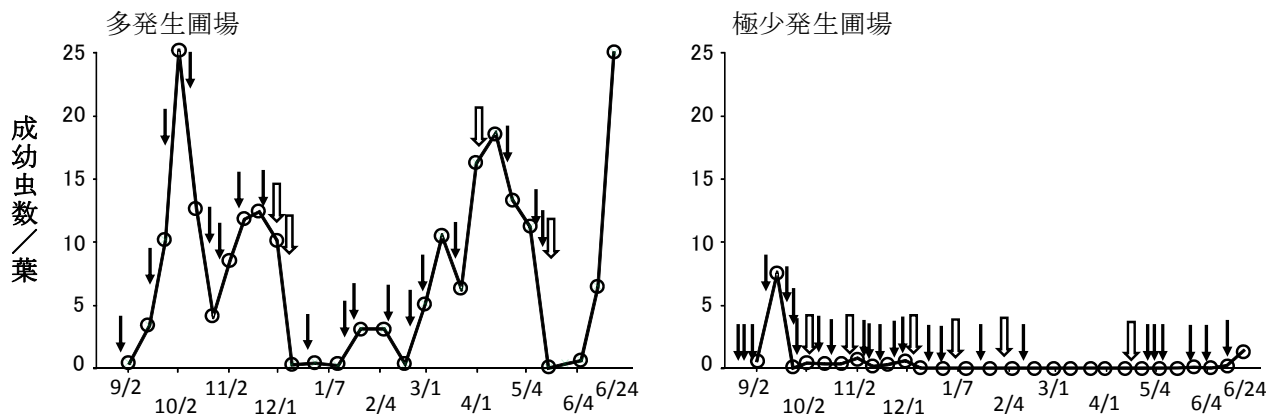


図1 ナスの葉に生息するアザミウマ類成幼虫の発消長

注) 白矢印はアフーム又はプレオの散布時期、黒矢印はその他のミナミキイロアザミウマ適用薬剤の散布時期を示す

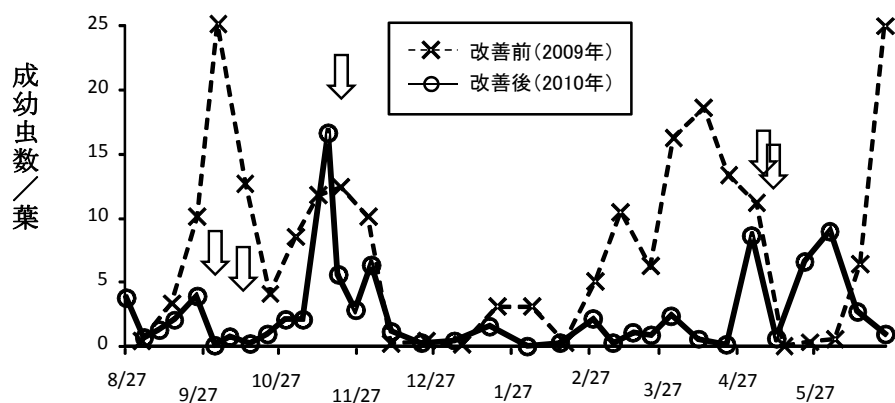


図2 9月下旬から10月上旬の重点防除によるアザミウマ類に対する防除効果

注) 矢印は改善後にアフーム又はプレオを散布した時期を示す

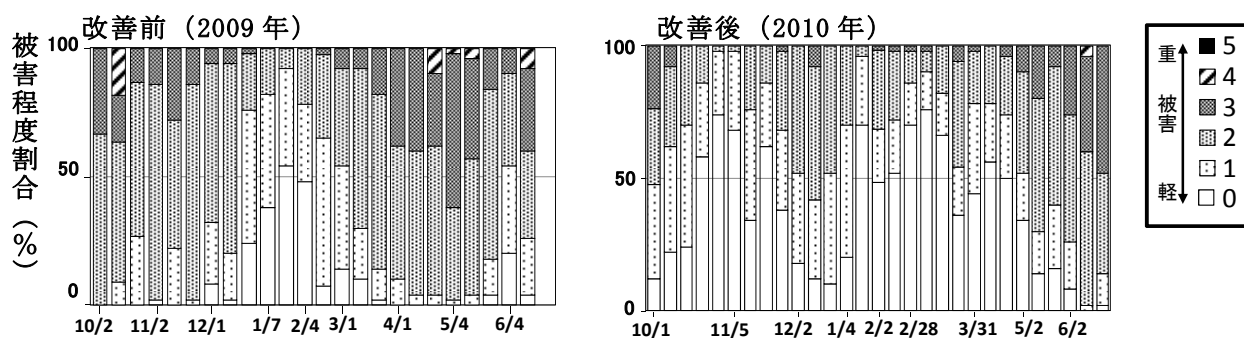


図3 9月下旬から10月上旬の重点防除による被害程度割合の改善

注) 被害程度 (0:被害なし、1:へタのみ少し被害、2:へタの20%以上が被害痕に覆われる、3:果実表面の5%未満が被害痕に覆われる、4:果実表面の5%以上10%未満が被害痕に覆われる、5:果実表面の10%以上が被害痕に覆われる)

[その他]

研究課題名：促成栽培ナスにおける難防除病害虫の減農薬防除体系の確立

予算区分：交付金（病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立）

研究期間：2010～2012年度

研究担当者：西優輔